

令和2年度 学力向上プラン

学校名 中央区立阪本小学校

学校の教育目標

・思いやりのある子 ・よく考える子 ・たくましい子

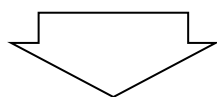
学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

・基礎・基本の定着を実感させるとともに、自ら学んだという達成感を味わわせ、自信をつけさせる。

令和元年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none">ローマ字のつづり（促音）が苦手である。（学習力サポートテストの結果）決められた長さで文章を書くことが苦手である。（授業中の児童の様子）	<ul style="list-style-type: none">継続して学習できていない。英語と混乱することがある。書きたいことが多くなり、文章が長くなる。
算数	<ul style="list-style-type: none">棒グラフや折れ線グラフ、表などを描くことが苦手である。（学習力サポートテストの結果、授業中の児童の様子）コンパスを使用する作図に課題がある。（授業中の児童の様子）	<ul style="list-style-type: none">グラフや表について、図を描く学習に個人差があり、個別の指導に多くの時間を要する。
社会	<ul style="list-style-type: none">地図の読み方が苦手である。（授業中の児童の様子）都道府県の名称・位置など、基本的な事柄の定着が低い。（授業中の児童の様子、評価テスト）	<ul style="list-style-type: none">授業中に地図帳を活用する機会が少ない。基礎・基本の定着が不十分である。
理科	<ul style="list-style-type: none">生物や植物など、自然に関わる内容が苦手である。（学習力サポートテストの結果）星座についての理解が浅い。（学習力サポートテストの結果、授業中の児童の様子）	<ul style="list-style-type: none">昆虫に触れたり、植物を観察できたりする環境が少ない。自然の中で生活する体験が少ない。
体育	<ul style="list-style-type: none">20mシャトルランなど、持久力に課題がある。（体力調査の結果、授業中の児童の様子）握力に課題がある。（体力調査の結果）	<ul style="list-style-type: none">継続して運動を続ける経験が少ない。鉄棒など、物をつかんでぶら下がるなどの運動経験が少ない。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の授業規律や、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図り、保護者アンケート「学校は児童に基礎学力が身につくように教えている」及び、児童アンケート「授業の内容はよくわかりましたか」の肯定的回答90%以上を達成する。 ・理科では、植物や生き物の観察を充実させ、日常生活と学習をつなげ、保護者アンケート「環境に関する理解が深まっているか」の肯定的回答90%以上を達成する。
②授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善を通して、思考力・判断力・表現力等をバランス良く育成し、教職員による学校評価「指導法や学習形態などを工夫し、児童が意欲的に学習に取り組んでいるか」の肯定的回答90パーセント以上を達成する。 ・筋道を立てて解決する指導の重点を継続的に進め、自分で考えた内容を表現したり、友達の意見を聞いたりする活動を増やし、保護者アンケート「自分から課題をもち、学習しているか」の肯定的回答85%以上を達成する。
③教員の指導力	<ul style="list-style-type: none"> ・年間のOJTを通して、教員の授業力を向上させ、個々に応じた授業の工夫に取り組み、教職員による学校評価「個に応じた学習形態が工夫されているか」の肯定的回答90%以上を達成する。
④家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・児童との個人面談を年3回全員と行い、その内容をもとに家庭との連携を深め、児童アンケート「先生は悩みなどについて話しやすいですか」の肯定的回答75%以上を達成する。 ・地域や家庭と連携し、教育活動への理解と協力を求め、保護者アンケート「学校は地域を生かした教育活動や行事がある」及び「保護者は学校の教育活動に積極的にかかわっている」の2項目の肯定的回答80パーセント以上を達成する。
⑤体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中に家庭で行える運動に関するプリントを配布し、家庭への協力を求め、児童アンケート「自分の体力づくりに取り組んでいますか」の肯定的回答90パーセント以上を達成する。



【目標達成のための具体的な取組内容】

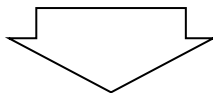
①学力基盤	
取組Ⅰ	レディネステストや学習力サポートテスト等の結果を分析し、習熟度別指導の充実を図る。
取組Ⅱ	理科では、植物や生き物の観察を継続的に行い、科学的なものの見方・考え方を育成する。
取組Ⅲ	多様な体験活動を取り入れ、基礎的・基本的な内容を着実に習得させる。

②授業改善	
取組Ⅰ	ペアや小グループを活用した主体的・対話的な学びの充実を図る。
取組Ⅱ	「個」→「ペア」→「全体」→「個」と、個で振り返る時間を授業の中に学習のサイクルとして確保する。
取組Ⅲ	タブレット端末を中心としたICT機器の活用により、主体的・対話的な学習を展開する。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	若手教員と主幹・主任教諭とのOJTを中心として、「授業のねらい」「展開」「発問」等、効果的な指導方法について助言を行える環境を整える。
取組Ⅱ	タブレット端末を中心としたICT機器の活用とプログラミング教育の研究を通して、主体的・対話的で深い学びを中心とした学習を進められるようにする。
取組Ⅲ	校内研修を通して、問題解決型の学習を進め、自ら進んで調べ、多様な考え方をもち児童を増やす。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	家庭と連携して、家庭学習キャンペーンを年2回行い、児童には家庭学習の習慣を身に付けさせ、保護者に家庭学習の大切さを伝える。 PTA「阪本子ども未来塾」の学習活動を周知し、参加を呼びかける。
取組Ⅱ	年3回の児童全員との面談、年2回の保護者との個人面談を通して共通理解を図り、児童の指導に生かす。
取組Ⅲ	年間2回の学校公開を始め、学校での授業や行事を通して、学校での児童の様子を参観してもらい、学校での学習の様子を伝えていく。

⑤体力向上	
取組Ⅰ	マイスクールスポーツのなわとびを中心に、長期休業中のなわとびカードの配布など、年間を通して、体力の向上に努める。
取組Ⅱ	体育の授業を中心に、児童が運動技能を高め、運動を通じてできる喜びを実感させ、運動が好きな児童を育成する。
取組Ⅲ	オリンピック・パラリンピック教育と関連させ、オリンピックなど外部講師も活用し、児童の苦手な分野への意欲づけを行う。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
①学力基盤	<ul style="list-style-type: none">・様々な教科等で外部講師を招き、専門的な話を聞くことで、児童が意欲的に学習に取り組めた。・算数科では、習熟度別学習を展開し、個に応じた少人数指導を進めた。・学校評価の保護者アンケート「学校は児童に基礎学力が身に付くように教えている」、児童アンケート「授業の内容はよくわかりましたか」はともに95%以上の肯定的な回答となった。	<ul style="list-style-type: none">・自然が乏しい環境のため、体験活動の実施が難しかった。環境を整え、体験的な学びを多く設定する。・自然環境の制限がかなりあり、今後、7月完成予定の坂本町公園の活用を含めて、特別に自然を見に行く等の活動を多く取り入れる必要がある。
②授業改善	<ul style="list-style-type: none">・様々な教科、場面で教師、児童ともにタブレットPCを日常的に活用し、様々な活用方法による授業スタイルが実践できた。・教職員による学校評価でも、全教職員が学習活動を工夫できたと回答した。・「個」→「ペア」→「全体」→「個」の学習サイクルが定着した。	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍において、ペア、小グループでの対話を中心とした活動は積極的にできなかった。・保護者アンケート「自分から課題をもち学習しているか」の肯定的回答は76%であった。しかし、「わからない」という回答も16%あり、筋道を立てて自分の考えをもつ学習スタイルを保護者へ発信していく。
③教員の指導力	<ul style="list-style-type: none">・研究を通して、ICT機器の活用やプログラミング教育において、授業実践を増やし、教師の指導力が向上した。・校内研究を中心に教員同士が積極的に助言できた。・教職員による学校評価「個の課題に応じた個別指導の実践」は、73%が十分に達成したと回答した。	<ul style="list-style-type: none">・年間を通して、お互いの指導を見合うなど、OJT研修の実施はもちろん、より効果的な指導実践に向けた計画や指導力向上のための研修を充実させる。
④家庭との連携	<ul style="list-style-type: none">・年3回の児童との面談、年2回の保護者との個人面談を行い、家庭と、学習指導及び生活習慣に関する指導の共有が図れた。・伝統文化理解教室では、本校の特色ある教育活動の成果を発表できた。・児童アンケート「先生は学校などの悩みについて話しやすいですか」について肯定的回答は71%と、昨年度より6%上がった。・保護者アンケート「学校は保護者や地域の人が積極的に教育活動にかかわれるようにしている」は肯定的回答が88%だった。	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍で、公開できるタイミング、保護者の方と直接会う機会が少なく、コミュニケーションが薄くなってしまい、実態を知ってもらう機会が取りにくかった。・一人一台タブレットが貸与された際には、学年ごとに取組の様子を掲載し伝えていく。・コロナ禍においてPTA「阪本子ども未来塾」の活動がほとんどできなかった。オンラインでの取組方法等検討していく。

<p>⑤体力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育朝会などを活用し、なわとびの面白さを伝え、児童が楽しみながら運動できた。 ・体育朝会などで学習した動きを、休み時間に児童自ら、取り組む姿が見られた。 ・コロナ禍でもオリンピックによる授業、投げ方教室などを行い、児童の運動に対する意欲が高まった。 ・なわとびの学習カードを効果的に活用することで、体力向上を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「自分の体力づくりに取り組んでいますか」の肯定的回答が71%と目標が達成できなかった。 ・コロナ禍の制限の中で十分には行えなかった。 ・マイスクールスポーツの「なわとび」を中心に、長期休業中の継続的な運動を定着させる取組を実践する。
--------------	---	--